

氷川町 特産品 紹介

畳表



タールの面積となりました。その後、中国産の草の輸入急増や住宅の洋風化に伴う需要の減少等で価格が低迷し、平成25年現在では氷川町全体で面積が98ヘクタール、82戸で「ひのみどり」「タ風」「ひのはるか」が栽培されて、高品質の畳表「ひのさわら」「ひのさわら」「ひのさやか」を生産しています。

畳表の良さが見直されつつある中、高品質の畳表を生産し、産地を守っていきたく思います。

氷川町には現在、JAやつしろ竜北町い業部と宮原支所い業部の2つの組織があります。

氷川町にい草が栽培されたのは、明治元年にい草栽培の自由耕作が許可された以降と推測されます。記録として明治45年に中網道小組合31戸でい草栽培の事例が残っています。

統計資料では、昭和36年に竜北町で面積が100ヘクタール、580戸で「岡山県産」「あさなぎ」が栽培されています。その後、生乾燥機やハーベスター等の省力機械が次々に開発され、住宅戸数の増加により、平成2年のピーク時には氷川町全体で924ヘク



表紙のひとこと

第8回いちご杯九州へラブ釣大会in氷川が4月21日に

知火干拓貯水池で開催されました。県内外から釣り自慢の太公望の方々が思い思いの場所で釣り糸を垂らし、穂先の動きに集中され、大物のフナが釣られた人や魚に嫌われ釣果に恵まらなかった人など静寂に包まれたなかの熱い戦いとなりました。



編集後記

皆さん、環太平洋連携協定（TPP）について、どのような意見をお持ちでしょうか。

現在、日本は関税で農産物は守られていますが、TPPで関税が撤廃されると安い農産物が輸入されるので国内の農業経営が成り立たなくなりそうです。農業が疲弊して農業をやめる人が増え、日本の食料自給率は低下が予想され、農地は荒廃し大規模な自然災害の発生が懸念されます。

一方、消費者は安い農産物が輸入されると安く買うことができるので、貿易が盛んになり経済が活性化されると言われています。日本の安心・安全な農産物を少しは値段が高くて日本の農業を守るためにもどちらを選択するかは国民の判断ではないでしょうか。

政府は米・牛肉・豚肉・砂糖・乳製品などの5品目の関税維持を目指すと言っていますが、ほんとうに国益を守ることができるのでしょうか。

議会広報調査特別委員会

委員長 永田義昭

副委員長 坂本悦男

委員 三浦賢治

委員 上田俊孝